

岐大通  
2010



苦手のアウェーで勝ち点1。  
でも、3年で得点ゼロは.....(苦笑)。  
愛媛0-0岐阜【第3節】

FC岐阜はアウェイで愛媛FCと対戦し0対0で引き分け。アウェイでは負けない事が大事。上位進出のためにサポーターは熱い応援を！FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

よく、失点せず耐え抜いた。愛媛の早いプレス、フォアチェックに苦しみ、最終ラインからの球回し、サイドチェンジに翻弄され、何度か決定機を作られた。ポストにも助けられたし.....というのが、現地での感想だったけど、改めて録画を見直すと、ウチにもずいぶんチャンスはあったし、特に前半、それも30分辺りまでは愛媛に何もさせてなかった。いや、まったく何を見ていたんだらうね（苦笑）。たぶん、枠内に飛んだ決定的なシュートが少なく、ことに後半は正吾のヘディングだけだったことと前半とは逆に愛媛の決定的場面が多かったせいだろう。

ただ、シュート数が少ないのは今季の岐阜の仕様。わかっているつもりだけど、ついつい欲張ってしまうのかな？それでも、今季成績のよくないアウェイでの引き分け。オマケに負ければ愛媛と順位が入れ替わるという状況で最低限の結果は出した。チーム内得点王・押谷の累積警告による欠場は残念だったけど、永芳や愛媛出身のキャプテン、そして村上ががんばってくれた。試合途中には、村上の後輩、広島大学サッカー部の選手たちが駆けつけてくれた。自分たちの試合が終わってから車で来てくれたらいい。もちろん、ご家族含めた地元の仲間からの声援を受けた24番は、体を張った守備はもとよりクロスや中央への切れ込みと縦横無尽に走り回っていた。今後も積極的にアタックをしてほしい。

それにしても、ニスタで無得点。このスタジアムには何かいるんだらうか？3年もやって1点も取れてないのはココだけ？あのビッグ・アーチでさえ得点してるっていうのにね。来年こそはニスタで得点、そして必ず勝ち点3をゲットしよう！（ぐん、）

圧倒的に勝率の良いホーム戦とは対照的に、圧倒的に負けているアウェイ戦。しかも今季のチーム得点王で大黒柱である押谷が警告の累積で欠場。どのように戦うか、不安と期待が混在した試合だった。チーム全体で「まずは失点しないこと」という意識が強く働いていたのだから、守備は非常に安定していたと思う。コンパクトにしたブロックで決定機を作らせない。ボールを奪うと素早くシンプルにボールを前線に送る。それは良い事だと思うのだが...前線にボールをキープできる人間がいなくて（あるいは人数が足りない）ので、こちら（シュートは撃つのだが）決定機を作ることがなかなかできない。終盤には愛媛が3トップに変更して攻勢を強めたけれど、守備陣が集中して失点を許さず、そのままドロー。勝ち点1という最低限の結果は残すことができた。

これで、愛媛のホーム、ンジニアスタジアムでは3試合を戦って1点も奪えていない結果になった。上位でもないのに無得点なのってココだけじゃないのかな...と、苦手意識を持ちそうになるスタジアム。しかし一方で、愛媛は#7菅と#24村上の出身地。多くの関係者が訪れ、2人を応援してくれていた。可愛いマスコットもいるしスタジアムグルメも美味しいし運営はアウェイサポに優しいし、そういう点では良い印象のスタジアム。来年も遠征して、次こそは勝利したいものだ。（ささたく）

today's guest

横浜FC

2009 J2第16位  
J2通算対戦成績：3勝1分3敗

- 2009成績
- 第1節 09/05/20 横浜 1-1岐阜
  - 第2節 09/07/16 岐阜 2-0横浜
  - 第3節 09/08/22 岐阜 3-2横浜
- 2010成績
- 第1節 10/06/05 横浜 2-0岐阜

2010J2 順位表 第3節

(#は消化試合が1多い)  
勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

#1	柏	66p	+35	56	21	H
#2	甲府	59p	+24	57	33	H
3	福岡	55p	+25	51	26	A
4	千葉	51p	+21	51	30	A
#5	東京V	49p	+12	37	25	H
6	横浜FC	44p	+8	49	41	A
7	熊本	43p	-6	30	36	A
8	栃木	41p	+5	35	30	A
9	徳島	41p	+3	44	41	A
#10	岐阜	41p	-8	28	36	---
11	鳥栖	40p	+1	37	29	A
#12	愛媛	38p	-3	25	28	H
13	札幌	35p	-5	30	35	H
14	大分	34p	-9	34	43	A
15	水戸	33p	-9	23	32	H
16	草津	33p	-14	26	40	H
17	岡山	25p	-22	19	41	H
18	富山	20p	-29	29	58	H
#19	北九州	15p	-30	18	48	A

次回 HomeGame

第3節  
サガン鳥栖戦

11/14(日) 12:30  
@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)  
10/30号  
編集発行:『岐大通』製作委員会  
今号の製作担当: ささたく & 吉田 鎗造

編集子より  
ご愛顧いただきありがとうございます。  
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしく願致します。

ALADDIN

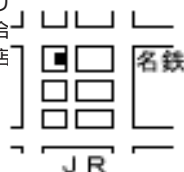
何も無い店だけど...心の花が咲く...  
何も無い店だけど...心癒される...  
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

Living in Woods

本庄工業株式会社  
http://www.honjo-woodream.com/

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合  
アットホームな韓国料理店  
『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅  
から徒歩3分。  
休: 日曜日  
(今日は営業しています)



## 雨のメドウで逆転勝ち。『長良川劇場』が還って来た！ 岐阜2-徳島【第29節】

F C岐阜は長良川で徳島と対戦し2対1で逆転勝ち。前半に津田選手に先制ゴールを決められて苦しい展開になるも嶋田選手の同点ゴールと押谷選手のゴールで逆転勝ち。この勝ちは大い。上位進出のためにサポーターは熱い応援を！F C岐阜頑張れ！（ハマッチ）

10月最初のゲームは雨中の戦いとなった。前回の対戦で4-0と完敗を喫し、順位も上を行く徳島。96-97年の静岡学園が高校サッカー全国優勝したときのメンバーで、その後ジュビロに入団した倉貫（いつの間に徳島に？）や、アテネ五輪代表メンバーで新潟にも所属していたDF三田光や、元セレッソの柿谷や濱田、名古屋グランパスでトップ出場の経験もあるF津田と、Jでプレーしていた実力者が顔を揃えており、また、試合内容を見ていくと「サッカーをよく知っているな、」という感じがした。

雨量と降り出した時間を考えると、まだ、芝生に水が浮いているような状態で、ボールは伸びてくる。パススピードは上がるし、トラップミスが起こりやすい。前半、徳島に何本かセットプレーのチャンスがあったが、遠目からでも直接狙ってくるなど、「嫌らしいこと」をしってくるな、という印象だった。当然ファーストバウンドが変われば、フアンブルする危険性、コースが変わる可能性があるため、思わぬ得点が転がり込むことがある。再三に渡りゴール前にクロスを放り込んできたのも、理に適った攻撃と言えた。失点シーンはセルフジャッジのようなところがあったのか、結局フリーでやられてしまった。効率のいい徳島の攻撃に対し、岐阜は中央一辺倒で、ボールを奪ってははね返され、奪ってははね返されの繰り返しだった。それでも前半終了間際、嶋田が意地の一発を「体ごとねじ込んだ」とでもいう表現が正しいだろうか、決め、同点に追いつき、前半を折り返す。

後半に入っても、岐阜の攻撃に工夫は見られず膠着状態か、と思われたが、3分、押谷が技ありのゴールで逆転に成功。個人的に上に上がっていくためには1点リードの残り10分プラスロスタイムを「どう終わらせるか」も重要かと考えているが、最近は随分安心して見ていられる。4分（以上あったと思われる）ロスタイムもきっちり凌ぎ切り、ホーム4連勝を告げるホイッスル。目下のライバル、徳島を下した今回の意義はとてつもなく大きいだろう。

何度となく煮え湯を飲まされてきた。拮抗した接戦をモノに出来るかどうか、1点リードの状態残り10分をしのげるかどうか。そこに「今の岐阜の先に進める力」とでも言えいいのか、課題は隠されていると思う。今日は一つ殻を突き破った。こういったゲームをもっともっと増やし、モノにしていければ、おのずと順位は上がっていくだろう。

さて、この流れを絶やさぬよう、アウェイでどれだけ踏ん張れるかが課題だ！！

（現徳島県東みよし市出身の友人と200年から音信不通の男）

ホームで2試合続けての雨中戦。肌寒さを感じる中で始まったゲームは、一瞬のエアポケットからゴールランキングの上位を走る徳島FW津田に決められ、その後も厳しい展開が続いた。スタメンだけでなく、サブの選手の面子を見てもネームバリューや個々の力量、経験値も徳島の方が圧倒していたし、先制されたのは厄介だなあと思っていたのだけれど、前半途中での選手交代が流れを変えた。

当初のプランは、キャプテンの豊富な運動量で徳島に余裕を与えないという狙いだったと思うが、先制されたうえに雨というコンディションからセットプレーと長いパスに期待しての永芳投入。シーズンが始まった頃の山内や洗一みたいな交代は今いち納得いかなかったけど、この日の交代は腑に落ちる。そして、前半終了も近づいた頃に訪れた同点劇。速攻がスローダウンし、いったん左から右へのサイドチェンジ。ポカッカリ空いた真ん中でボールを受けた優大のミドルがポストに当たり、もつれたゴール前に走りこんだ正吾のシュートが決まる。

この場面、そして後半、押谷の逆転ゴールを影で演出したのは、この日ボランチで出場した秀人のフリーランだと思う。同点の場面も、受けたボールを押谷に預けてそのまま前進、優大がボールを持った時には秀人が右に、正吾が左に開いたために余裕を持てた優大がシュート。そして、ポストの跳ね返りに真っ先に飛び込んだのも秀人だった。逆転のゴールもアシストした優大にドンピシャのパス。しかも、すぐさまゴール前に駆け込んだから、押谷へのチェックが緩くなったんじゃないかな？とも思う。まあそれはともかく、何度見ても惚れ惚れする美しいゴール。シュートはもちろん、パスもランも素晴らしかった。それから、惜しくも枠を外れたけど逆転ゴールの前の押谷のシュートも見事。ここんとこ、彼のフォアチェックは効きまくってるような気がするね。

試合はこのまま2-1で勝利。ポカスタでの借りはしっかり？返した。先に書いたけど、今でも個々の能力は徳島の方が上だと思う。でも、個人差だけで勝敗は決まらない。指揮官のコンセプトの下、意志を統一して組織で戦う。その結果がこの日の勝利。対戦する各クラブが、岐阜の守備組織とカウンターを脅威に感じ始めている。アウェイ連戦が終われば上位との対決が続くけど、何も恐れず、この勢いで当たっていこう！今の岐阜なら十分渡り合えると信じてる。そのためにも、アツイ声援で選手を盛り上げていかなきゃね！！

あと、余談だけど、この試合をスカパー！で解説していた前15番。同点の場面で優大がボールを持った瞬間「ここでシュートを撃ってもいいですね。」と一言。その言葉が終わらぬうちに優大がシュート。そしてゴール……。現役を引退してもその得点感覚は衰えないのか。録画を見ていて思わず感動してしまった。（ぐん、）

徳島は（アウェイでは惨敗してる印象があるけれど）ホームでは相性が良く、通算戦績でも勝ち越している相手。しかも、今節唯一のナイター開催だったので試合結果では順位が変動することが分かった上での対戦。ところが、DF陣とGK村尾の連携ミスの際を突いて、岐阜出身の敵FW津田が技ありのループでゴールを許す。スタジアムではオフサイドを見逃されたのかも思ったが、録画で確認したら完全な連携ミス。実に勿体ない失点だった。その後も、雨が降っているのにショートパスを多用した攻撃でボールを奪われる場面が目につく。こないだの大分戦、雨のメドウで「シンプルにプレイして」快勝したんじゃないかったっけ？（苦笑）しかもボールを敵味方が密集している中央に通そうとするのだから、すぐに奪われてしまう。これはマズいな...と思っていた前半終了間際、優大が隙を見つけてミドルシュート！ボールはポストに弾かれたが、GK日野に当たって跳ね返り、これを正吾が押し込んで同点！前半の間に追いつくことができたのは大きかった。

後半は岐阜の方に勢いがあり、押し込む場面が増えたが、「前・岐阜の守護神」日野優のファインセーブに決定機は奪えない。そんな中、不可解なファウルをとられて押谷がイエロー。これで次節の累積による出場停止が決まり、集中が切れるかと心配に...しかし直後、その押谷が逆転弾！歓喜に爆発する『長良川劇場』。しかもその後は徳島のパワープレイの猛攻に曝された挙げ句、村尾がハイボール処理を誤り、あわや失点かと観客から悲鳴が上がったところを、新井がゴールから掻き出す大ピンチも最後に演出する『劇場型サッカー』の徹底ぶり（苦笑）。ともあれ、目の前で逆転勝利は（試合中は本当にハラハラさせられるけれど）病みつきになります。それにしても、徳島はどうしちゃったのだろう？前半30分にMF島田が負傷交替したのが影響したとは思うけど、J2では豪華なメンバーを揃えた徳島の方が、選手個々の技量については上だったと思う。それをウチがチーム力としては上回ることが出来たのは非常によかったと思うし、これだからサッカーは面白い！（ささたく）



## 追いついたことは評価出来る。しかし.....。 岡山 2-2 岐阜【第3節】

この試合は、岡山にとっても年に一回の東北・津山開催。岡山の選手も事前に練習を行ったくらいの不慣れなピッチ。そんなコンディションにもかかわらず、結果は2-2のドロー。下位を相手にもつたいないという意見もあるだろうけど、追いついてのドローで勝ち点1を積み上げることができた。とりあえず、最低限の結果はもぎ取ってくれたかな、と。確かに前半は、前節同様早目のチェックに攻撃の形がなかなか作れず、岡山に主導権を奪われた。シュートも2本と少なかった。ただ、シュートが少ないのは今季の岐阜の仕様だから(苦笑)。それでも、2本とも(優大のヘッドも洗一の右足も)確実にゴールを捉えていた。なんとかこらえてほしかったけど、最初の失点がクリアミスだったのは残念だった。出来としては「よくはないけど、それほど悪くもない。」という感想。前半終了時に「逆転できるだろ。」と、なぜだかそれが当たり前のように思ってしまった。勝ってくれると思ったんだけどね。

前半の池上の交替は、故障か誤算かわからない。でも、後半早々に川島を投入して押谷をトップに上げたことで、前半はほとんど消えてた彼の存在が際立ってきた。1点差に詰め寄ったゴールは、奪ったところからフィニッシュまで完璧。前線でスキをうかがって相手のパスミスをかっさらい、対峙した2人のCBのみならず、その奥に構えるGKもひっくりめて距離とタイミングを測り、狙いすましたコントロール・ショット。見送るだけのGK。美しすぎるゴールだった。そして、3人目の交替は久々の基棟。押谷のようなスピードはないけど、その重量感溢れる突進で惜しい場面も演出。あのジャンピング・ヘッドが外れた時は甲府戦のことが頭をよぎったけど(爆)、AT突入直前ついに岡山ゴールをこじ開けてくれた。基棟、J初ゴールおめでとうっ!

結局、逆転まではできなかったけれど、これで今季は結果が出せなかったアウェイで3戦連続引き分け。しかも、0-2からの勝ち点奪取というのが素晴らしい。采配的中したと言えるし、結果としては悪くない。今季は残り6試合。これからは、現時点で上位のクラブばかりとの対戦だ。しかし、次節の横浜ほか鳥栖、栃木は順位的に逆転可能。もちろん、楽な相手ではないけれど、目標到達のためには負けられない。おまけにこの3クラブにはアウェイで敗れている。借りはのしをつけて返す! そのためにも、メドウでアツイ声援を!! 選手を盛り上げていきましょうっ!!! (ぐん、)

前半と後半でこも出来が違うものだろうかと感じさせられた試合。とにかく前半は酷かった。おそらく今年見た中でワースト1、2といえる内容。岡山の前線からの積極的なプレスに圧倒され、まったくペースを掴めずじまい。そんな中での2失点。1点目は事故的な要素が高いとはいえ、2点目は集中力の欠如でニアサイドで岸田を一瞬フリーにしてしまいヘッドを決められてしまった。ハーフタイム時にはいつものようなコールが切られず、ブーイングが起きたほど。

後半はおそらく前半飛ばしてきた岡山が息切れしてくるにつれて、岐阜のペースとなり途中からはハーフコートマッチのような様相に。1点目の押谷のゴールは見事。相手DFが2人ついていながら、軽い上体だけのフェイントと小さな足の振り、そしてGKの位置をよく見て狙った技ありのゴールといえるだろう。更に終盤投入されたキドン。彼なりにこの試合に懸けるものがあつたことだろう。フリーのヘッドを外したときは思わず頭を抱えなくなってしまったが、その後のフリーキックをファーサイドで待ち構えてのシュート。相手選手がブロックしたもののゴールに吸い込まれるパワフルなものであった。敗色濃厚な試合を引き分けに持ち込んで勝ち点1を得ることができたのは大いに評価できることであるが、逆に言えば、後半の内容が前半もできていればと思わずにはいられない。ただ、今年は圧倒的に分の悪いアウェイの試合を3試合続けて引き分けということは前向きに捉えてよいだろう。気になる点が1点。前半1失点目の直後に池上を交代

させたこと。足首の状態が悪かったということらしいがそういう状況は事前に把握していなかったのだろうか?あるいは把握していてもいけるところまでやらせるつもりだったのだろうか?メンバー人選に誤りはなかったのだろうか?いずれにしても、3つしかない交代枠を前半の早い段階で使わざるを得なかったことが非常に勿体ないと感じられた。

(岐阜の誇り)

いつもだったら確実に負けパターンの試合を引き分けに持ち込んだのはいい材料だと思いますが...前半の2失点は余計だったと思います。「岡山は格下」とナメていた気持ちが選手達に伝わったのかどうか分かりませんが、プレーに落ち着きが無かったように感じました。後半の勢いとしぶとさを前後半通じて維持出来れば昇格争いも夢ではないと思いますが、前半みたいなプレーをしていたらすぐに最下位だな、と思います。(ブラウ@翠魂)

前節の愛媛戦に引き続き、岡山は#6秋田と#15永芳の出身地。しかも秋田選手は作陽高校卒で、今節は年に1度の津山開催。試合開始前には大きな声援が彼に飛んでいた。そんな声援に浮かれた訳でもないだろうが...前半の岐阜は本当に酷かった。ボールが足元で落ち着かないし、岡山の方が球際の厳しさ・チェックの早さ・そして気迫で上回っており、自陣に押し込まれる。また、ボールの待ち方や出し方が悪い(遅い)ので、すぐにボールを奪われ攻められる。そんな状況の中、守備陣の詰めが甘いところでミドルシュートを撃たれ、こぼれたボールを押し込まれて失点。この直後、池上に替えて菅を投入すると、徐々に攻撃の形が作れる様になり相手ゴール前に迫るようになるものの、ワンプレーで相手にCKを奪われ、そのCKでニアサイドから完全どフリーのヘッドで2失点目。これで再び勢いを失い、そのまま前半終了。残念ながら岡山の圧倒的優勢で「選手が戦っていない」と皆が思えたらしく、前半終了時に檄が飛んだのは、僕が現地にいた試合では初めてじゃないだろうか。

後半は開始からFW洗一に替えて川島がボランチに入ると...前半とはまるで別のチームだった。岡山の足が止まってきたのもあるかもしれないが、後半は気迫ある動きで岐阜が勢いを増す。そんな状況の中、押谷が相手の不用意なバックパスを掻きさらって独りで持ち込み、2人のDFの壁をフェイントで崩し、技ありのシュートで1点を返す。そして、76分には#10朴基棟がピッチに登場、いきなりフィジカルの強さを発揮して迫力あるドリブル突破を見せつける。これで更に勢いを増した89分、永芳からのFKを胸でトラップしたキドンが豪快に足を振り抜き、相手DFに当たったものの、そのまま同点! 喜ぶのも僅かに、更に逆転をと攻め立てる岐阜。ロスタイムには押谷がオーバーヘッドでゴールを狙うなど、最後まで気迫あるプレーを見せたが、そのままドローとなった。試合終了後、正直、すごく微妙な思いになった。「前半グダグダで2失点もしたのに、後半で2点返して同点にまで持ち込めた」とも、「でも、あと少しで勝てたのに勝てなかった。そもそも前半で2失点しなければ...」とも。6位~12位が大混戦を繰り広げている状況では、勝ち点2の違いが後々大きく影響するから、勝ちたかったし、悔しかった。でも、今まで期待されていたのにベンチにも入れなかったキドンがチャンスをつかみ、そして結果を出してくれたことが素直に嬉しかったし、今後の試合での彼の活躍が非常に楽しみになった。あと、組み合わせや怪我等で苦労しているんだろうけど、後半開始時にボランチが2人とも入れ替わってるってのは、どうなんだろう(苦笑)。あのポジションが安定しないと、厳しい試合になるような気が...

さて、今節は中位争いで6位トップを走る横浜FCとの一戦。しかし、勝ち点は僅かに3差。8戦連続負けなしのホーム・長良川で勝利して順位を一ケタに戻したいところ。そのため、みんなの拍手と声で『長良川劇場』を開演しよう。

(ささたく)

## 【ユース】 岐阜ユース、セレッソユースと戦う。

FC岐阜はアウェイで岡山と対戦し2対2で引き分け。前半戦を0対2で折り返す苦しい展開も試合終了間際に追いついての引き分け。アウェイでのこの引き分けは大きいね。上位進出のためにサポーターは熱い応援を！FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

いよいよ、残り試合もわずかとなってきた。津山市で行われた岡山戦。多くのメディアで取り上げられているように、FC岐阜がアウェイで結果を残せていないのは明らかで、世界の主要リーグを見ても、アウェイでここまで勝ち点を稼げないと順位は上がらない。特に、混沌としている中位陣、このアウェイ2連戦は一つの山場だったのだが...。

キックオフから度々岡山にピンチを作られる。ゴール裏から見ていて思ったのが、「危機管理能力」とでも言えばいいのだろうか？空いたスペースをいち早く見つけて、フリーな選手に展開し、岐阜が後手に回っている間にギャップを突く、といった感じで、スペースのケア、相手選手のケアがうまく出来ていない印象だった。さらにディフェンスラインでの危険なパス回し。「セーフティーファースト」や「中に入れるな」とか色々な約束事はある一方、FCバルセロナのようにディフェンスラインから組み立てるという考え方もあるので、どれが正解とは言えないのだが、不用意に持ちすぎている、ちょっと見ていて「リスキーだな」と感じさせるものだった。先制を許して迎えた38分には、GKからニアの岸田に決められ、2点目を許すが、これは完全にサインプレーのような形で岸田を狙い撃ちしてきていた。一瞬マークを外されたが、セットプレーはその一瞬の駆け引きが失点につながってしまう。原因のコーナーにしてもミスから与えているのでこれはもったいない失点だ。元日本代表監督のフィリップ・トゥルシエ氏の「ミスは確かに起こる。ただ、連続して起こしてはいけない。なぜなら失点につながる可能性が高くなるからだ。」という言葉を思い出す。このまま前半は0-2で終了。

後半、川島を送り込み、ポジション修正したFC岐阜。ボールは持てるようになったが、いつものように、アタッキングサードの部分で工夫や動き出しが見られず、何とももどかしい展開が続く。後半20分、押谷のゴールで1点を返すが、彼の個人技によるもので、完全に岡山を崩せたわけではない。後半31分には朴基棟を投入し、さらに猛攻を仕掛けるが、時間は刻々と過ぎていき、敗色ムードが漂い始める...。しかし終了間際、朴が起死回生の同点弾を叩き込んだのだ!!うれしいプロ初ゴールが岐阜を死の淵からよみがえらせた。試合はこのままタイムアップし、何とか「勝ち点1」を得る事はできた。

さて、通常なら「アウェイでの勝ち点1」は「及第点」と出来るのだが、試合後、多くのサポーターが「勝てた試合だった」と話していたように、もう岐阜にはそんな事は言ってもらえない。アウェイで多くの勝ち点を失いすぎている。リーグ戦、いや、サッカーというスポーツそのものが、「積み重ね」なんだと思う。GKがどれだけファインセーブをしても、攻撃陣がそれに応えて、初めて価値あるモノになる。随所で相手のパスコースを切って、不正確なボールを出させたり、フィフティーのボールにさせたりと好プレーはあるのだが、味方がフォローアップして初めて意味がある。

現在の得失点差-8にしても、1つの試合だけでこうなったわけではない。「あのシュートが決まっていれば」「あの失点がなければ」その積み重ねの結果だ。シーズンは長い。FC岐阜は単発では確かにいいプレーは見られるし、ホームでの強さは凄まじいものがある。しかし、それを90分、年間通して出来るかが、常勝軍団への道ではなかるうか。このアウェイでの「勝ち点2」を価値あるものにするためにも、次のホーム戦で、スカッと勝てるかどうか、それが重要だ。

(ここ6週で3回岡山に行った男)

我らが「FC岐阜ユースU-18（以下岐阜ユース）」は10月16日にアウェイで、10月24日（日）にホームで「セレッソ大阪ユースU-18（以下セレッソユース）」とのJユースカップの試合がありました。

セレッソユースは名前の通りJ1のセレッソ大阪の下部組織で、今年の関西プリンスリーグ1部で優勝している強豪チームです。片や岐阜ユースは今年岐阜県の高中生リーグである「G2リーグ」を戦っていました。セレッソユースが今期地域1部リーグ所属とすると岐阜ユースは県2部リーグの所属。傍から見ればその力の差は歴然としています。10月16日のアウェイ戦はチームの公式HPによって「前半1対1、後半1対7、合計2対8」で敗戦した事を知りました。私は観戦していませんでしたので試合展開は判りませんが、「前半1対1」というスコアに少し希望を持つ事が出来ました。

「あのセレッソユース相手にも途中までとは言え互角に戦っていたのではないかと。また25日（月）になってセレッソユースのGKコーチが16日の試合について、次のようなコメントをしているのを知りました。「結果は大勝しましたが（中略）攻守で相手を圧倒することができませんでした」「選手がひた向きにプレーすることができず、前半終了しました」「今日のゲームはサポーターの皆様へ感動を与えることができませんでした」うわ~、物凄い上から目線（苦笑）。でも逆に言うとそれだけ岐阜ユースの選手達が頑張った結果だったのではないのでしょうか？

さて、10月24日のホーム戦は飛騨市古川町のふれあい広場にて行われましたので、観戦に行きました。当日は14時にキックオフ。岐阜ユースはDF4、MF5、FW1と先発メンバーの発表が有りましたが、試合が始まってみると最終ラインに5~6人をフラットに並べる超守備的布陣。その布陣に対してGKが後ろからポジショニングの指示を出してラインの統率をします。前半途中まではこの布陣及び選手の動きが効果的だったようで、ボールはセレッソユースが圧倒的に支配しますが、前線へのパスの殆どを岐阜ユースの最終ラインでオフサイドにして、攻撃の芽を摘んでいきます。これに対してセレッソユースは前半20分頃に岐阜ユースのミスから得点してきっかけを掴むと、前半30分過ぎからは岐阜ユースの最終ラインの裏を取る動きが成功し始め、どんどん岐阜ユースの最終ラインをすり抜けてシュートを打ち始め、セレッソユースが次々と得点していきます。前半終了時点で0対4。個人的にも「う~ん、やっぱりセレッソユースは強いな~」と感じていました。

雨が降り始める中、後半戦開始。岐阜ユースはポジションを修正し建て直しを図りますが、後半立ち上がりにも見事に崩されて2失点してしまいます。でも後半15分過ぎからは岐阜ユースの選手達も粘り強い守備を取り戻して追加点を許さず、また数少ないチャンスの時には果敢に攻める姿勢を見せてくれました。ただ相手ゴールは余りにも遠かった。結果トータル0対6でゲームセット、敗戦となりました。

結果は完封負け。やっぱりセレッソユースは強かった。でも岐阜ユースもボコボコにやられた訳ではなく、格上のチームに対して前半途中までは自分達でやりたい事が出来ていた。そして一度は崩れかけた試合を後半途中から立て直す事がある程度出来ていた。その2項目は自信を持って良いと思います。（でも本当は1点でも良いので得点して欲しかった... ..涙）

次は10月31日（日）にアウェイでアビスパ福岡ユースと、11月3日（水・祝）にホーム戦として古川ふれあい広場でジュビロ磐田ユースと試合が有ります。失う物は何も無い彼らは精一杯戦って来てくれるでしょう。残念ながら私は2試合とも観戦出来ませんが、その時の居場所からその活躍を祈念しています。頑張れ！FC岐阜ユース！！（シュナ）